事務事業評価＆総合計画実施計画調査シート

	コード	名　　称	区分	コード	名　　称
事業名	2115	伊賀国府跡公有化事業	会計		
			款		
基本施策	36	歴史や文化を守り、未来へと引き継ぐ	項		
			目		
施　策	5	史跡の保護・保存	細目		
			細々目		

基本計画該当頁	143	行革大綱の重点事項番号			
担当部課 コード	450400	評価者氏名	前田明伸	連絡先	22 － 9679
担当部課 名称	生涯学習課				（内線） 3830

事業種別	新規	補助	事業類型	Ⅲ	整備事業

2次評価対象分

事業の計画・内容

	対象等（何を、誰を）	成果（どうなるのか）
事業目的	伊賀国府跡 （※対象件数　　）	郷土の貴重な歴史遺産である国府跡の遺構を守り、史跡公園として活用を図ることによって、市民の文化財保護に対する意識が高まる
根拠法令・要綱等	文化財保護法、三重県文化財保護条例、伊賀市文化財保護条例	
開始年度	平成 21 年度	関連事業
終了年度	平成 25 年度	
事業内容	国史跡指定の後に順次公有化を図り、史跡公園として遺構表示や環境整備等の事業を進める。	状況変化等：本年度所有者の同意をいただき、国史跡指定の答申がなされる可能性がある。

事業実績

活動指標	単位	実績値 H18	実績値 H19	目標値 H20	目標値 H21
		目標 / 実績	目標 / 実績		
		目標 / 実績	目標 / 実績		
		目標 / 実績	目標 / 実績		

評価指標

事業の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	実績値 H18	実績値 H19	目標値 H20	目標値 H21
用地取得率（公有化率）	公有化を図ることにより、保存整備事業が可能となる	%	目標 — / 実績 —	目標 — / 実績 —		20
			目標 — / 実績 —	目標 — / 実績 —		

評価

評価項目	ポイント	評価項目についてのコメント
必要性	4	伊賀国府跡は全国で十数例しかない国府跡の遺構が確認された遺跡で、地下遺構が面的に広く良く残存している。この遺跡は現在および将来にわたって市民にとってかけがえのない貴重な歴史遺産であり、古代の遺構をそのまま残しつつ、遺跡の姿を将来に伝えていくことが必要である。
有効性	4	地下遺構を次世代に伝えていくため、まず国史跡としての指定を受ける。その後に国庫補助等を受けて順次史跡地の公有化を図り、公有化された範囲より遺跡の環境整備を進めていく。
達成度		
効率性	4	国・県の補助を受けることにより、市の負担は少なくなる。

総合評価	事業の方向性	改善についての取り組み
A		

整備内容

1 建設用地	坂之下
2 建設面積（延床面積）	3ha
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制

1 運営主体	
委託先	
2 配置（予定）人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

進捗状況

年度	21	22	23	24	25
用地買収	←	→			
進捗率（%）					

事業内容

	平成18年度 決算内容	平成19年度 決算内容	平成20年度 計画内容	平成21年度 計画内容	平成22年度 計画内容	平成23年度 計画内容
事業内容				公有財産購入費 30,000	公有財産購入費 30,000 委託料ほか 3,000	公有財産購入費 30,000
事業費計(A)	Σ 0	Σ 0	Σ 0	Σ 30,000	Σ 33,000	Σ 30,000
事業投入人員 人件費(B)	人 0	人 0	人 0	1.0 人 7,200	1.0 人 7,200	1.0 人 7,200
フルコスト (A)＋(B)	0	0	0	37,200	40,200	37,200

事業費（人件費除く）の財源内訳

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
(A)	事業費	0	0	0	30,000	33,000	30,000
Aの財源内訳	国庫支出金				24,000	25,500	24,000
	県支出金				3,000	3,300	3,000
	地方債						
	受益者負担						
	その他						
	一般財源	0	0	0	3,000	4,200	3,000
	計	0	0	0	30,000	33,000	30,000
備考	その他特定財源の名称・補助基本額・率 地方債の区分と充当率等				史跡等購入費補助金80%、県活かそう地域文化提案事業・指定文化財等保存事業10%	史跡等購入費補助金80%、史跡等保存管理計画策定費補助金50%、県活かそう地域文化提案事業・指定文化財等保存事業10%	史跡等購入費補助金80%、県活かそう地域文化提案事業・指定文化財等保存事業10%